

2024年度

施設番号	66-0336
施設名	昭栄保育園
施設所在地	昭島市拝島町 3-17-11
法人名	社会福祉法人 昭島愛育会

## 1、活動のテーマ

### 【テーマ】魚焼き体験

秋が旬の魚を園庭で捌き、焼く。  
魚に関心を持ち、楽しんで調理を行う。  
魚の鱗、骨、血、内臓なども見ることで、「命をいただく」という感謝の気持ちを育む

### 【テーマ設定理由】

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
毎年、秋の時期には「さんまの一尾提供」を行い、魚の一尾そのままの姿を子どもたちに知らせてきた。今年度は更に発展させ、5歳児クラスで実際に魚の内臓や血を見ることで、子どもたちに「命をいただく」とはどういうことなのか考えるきっかけになればと思い、このテーマにしました。

## 2、活動スケジュール

夏：知っている魚や、生で見てみたい魚、食べたい魚を子どもたちに聞く  
秋：園庭で火をおこし、BBQコンロを使用し魚を焼く。また、焼く際に必要な備品（アルミホイル、カップ、割りばし、醤油など）を2グループに分かれ近所のスーパーに買いに行く

## 3、活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
BBQコンロ、木炭  
アルミホイル、アルミカップ、紙皿、キッチンペーパー、割りばし、プラスプーン  
醤油、塩

## 4、探究活動の実践

### 〈活動の内容〉

事前の魚の聞き取りでは、様々な魚を知れるようにクラスに図鑑を置き、子どもたちの興味を惹きつけた。  
当日は、2グループに分かれ、実際に必要な備品をスーパーに買いに行くことで期待感を高めることができた。栄養士と共に行ったので、スーパーに置いている、普段保育園では出ない食材の話等も聞くことができた。園内で待っているグループは、前日が芋ほりであったこともあり、芋を洗い、焼き芋の準備をしていた。  
芋も同時に焼き、他クラスへも配ることができた。  
魚焼き体験では、事前の聞き取りをもとに「タイ」「サバ」「サンマ」の3種の魚を用意し、1尾そのままの姿を見せることができた。  
また、サバは小さな魚を捕食しているままのものが納品されたため、魚も他の命を頂いて生きている、という話をする事ができた。

〈活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり等〉

(活動の内容、活動中に見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・何の魚が食べたいか、という話の中では、鮭、鯖、鮪、鯛などの定番のものから、マンボウ、たこ、金魚、タツノオトシゴなど、様々な意見が上がった。
- ・近所のスーパーに買い物に行った際には、生のサンマ、アジが置いてあり、そこでも魚を見ることができた。その後、アジの開きも見て、同じ魚だということに驚く声が上がった。
- ・鯛を捌く際には、ヒレを開いて見せると、「大きい!」と驚く姿があった。鱗を取って見せると、「きれい」などの声も聞こえた。
- ・鯖は小さな魚をくわえた姿で納品されていたため、姿をみて「何か食べてる!」という驚きの声が上がった。その後内臓を取る際に、内臓にも小さな魚がおり、さらに驚く声が上がった。
- ・秋刀魚を捌く際は、頭ごと内臓を取って見せた。「気持ち悪い」という声もあったが、大半は興味を示し、楽しそうに見ていた。
- ・時間が足りず、食べるのは給食のタイミングとなってしまったが、給食と一緒に3種の魚の食べ比べもし、「鯛が好き!」「秋刀魚がおいしい」など、味の違いも感じ取れていた。

※活動の様子がわかる写真 2枚以上を貼付 (ホームページで公開します)





## 5, 振り返り

振り返りによって得た先生の気づき

- ・普段の給食では、骨もない切り身の状態の魚しか提供されないため、こうして一尾そのままの魚の姿を見て、捌き、焼いて食べる、という体験は子どもたちにとってとても楽しい活動となったように思う。
- ・家庭でもなかなか魚を捌いて調理することは少ないと思うため、こうして保育園でできたことは良かった。
- ・内臓や血を見て嫌がる子もいたため、無理強いせず、子どもたちそれぞれが参加しやすい形で行えたことも良かった。
- ・栄養士、担任だけでなく、園長、副園長、主任、理事長にも手伝っていただき、大人が率先して楽しんで参加することが、子どもたちの「楽しい」に繋がると感じた。